



平成11年2月27日(土)~28日(日)

長野県野沢温泉スキー場

リゾートハウス「ふるさと」

長野県下高井郡野沢温泉村6556

tel: 0269-85-2241

約7500+α

0期田村

9期伊藤

11期青柳(前日から乗り込み)

11期上村

11期森川(前日から乗り込み)

15期舟田

15期奥名

15期間所(家族全員4名)

加原稿を書きあぐんでいる私に、彼女が言った言葉そのまま)

以下は家内の野沢OBスキー合宿参加の感想文です。

野沢温泉スキー合宿に 参加して

15期 間所の妻 美智代

「行きたくない。一人で居る」

「ダメ。一緒に行こう。」

すったもんだのあげく、中二の娘麻衣と、中一の息子拓平と四人で、野沢温泉でのOBスキー合宿に参加させていただきました。子供達は前日まで期末テストを受けており、娘の方は提出物が有るからと、宿題をかかえての参加となりました。

主人から、1月末頃

「ワングルOBのスキー合宿があるから行こう」と言われ、

「まあ嬉しい、今年初めてのスキーだわ。どなたがいらっしゃるの？」

「奥名と節ちゃんとかー」

何も知らずに軽い気持ちで出掛けました。

ところが、何と、ワングルの教祖様を始め、9期、11期の、主人から見れば大先輩の方がずらーり。節ちゃんの様子がいつもとは何かちと違う感じ。奥名さんも心なしかおとなしめ。主人なんかだいぶ遠慮しているー。

”どうしよう”と思ったのも一瞬、野沢の雪景色の素晴らしさ、スキーの楽しさで、どっかへ吹っ飛んでいってしまいました。目まぐるしい程のお天気の変化の合間を縫って、二日券を無駄にしないよう楽しませて頂きました。

びっくりしたのはスノーボーダーの人が一人もないこと。スキー場ってこんなにおとなしかったっけ？って感じ。ボーダー禁止ができるスキー場ってのにも感激しながら、疲れたた体は露天風呂で癒して、民宿ふるさとのお料理もとっても美味しく、本当にすばらしいスキー合宿でした。

行く、行かないと文句を言っていた娘も、一階のホールを一人で貸し切り、宿題も仕上げ、大満足。

一泊二日と短い時間でしたが、恐そうに見えた大先輩の方々も、気さくな方ばかりで、とても楽しいスキー合宿でした。親子ともども参加させて頂き、本当にありがとうございました。

森川さんと節ちゃんには、沢山写真を送っていただきました。ありがとうございました。

今写真を見て、ニヤニヤしております。どうしてかって、子供の次に、私が一番若いからです。来年も是非参加させて頂きたいと思っております。



奥名 舟田 青柳 田村 上村 間所 森川
伊藤 麻衣ちゃん 美智代さん 拓平君

勝手知ったるゲレンデとなった野沢。昨年より時期早く、かつ雪は平年並でまずまずのコンディション。昨年のごとく、11期が圧倒的技量優勢で余裕を見せつけましたが、今年は15期だって本命カードあり。チャーミングな奥さんと可愛いお子さんをひきつけて、さっそうと滑る間所一家を彼等は羨ましそうに見てましたよ。そう、涎垂れてましたよ。スキーチョンガーもいいけど、うまければうまい程、奥さん子供達と華麗なシュプールを描いてみたいのが夢になるんでは…。下手な残り組は、そんな「野望」なんて持つはずがなく、怪我しないうちに帰ろっと、最後はゴンドラで悠々下りてきました。

田村さんは、もちろんヒーロー。目を丸くしていた観客多数。間所さんちの拓平君が喜んで「ほんとに滑るんか見たい」と追いかけていきました。あのキラキラ一杯の目…どっかで見たとね…そう、うちの子が珍しい動物を見た時があんな目をした…と気付いたら、ほんと笑っちゃいました。

(舟田 記)



金沢大学ワンダーフォーゲルクラブOB会（第1～3期）会合のお知らせ

先日、標記に関するご案内をお届けしたところ、10名の方から、参加する旨の返事を頂き、大変心強く感じております。具体的な実行計画を、下記の通り、立案しましたので、お知らせ致します。

記

1. 期日：平成11年5月8日（土）～9日（日）

2. 時間、および場所

(5/8)

・12:45～13:00. 石川県石引駐車場（別紙の地図参照）に、昼食を食べ終えて、お集まり下さい。

・13:00～16:00. 車で医王山へ移動
旧見上山荘跡、西尾平、医王の里周辺散策、
医王山（白ハゲ山）登山

・16:00～17:30. 医王山→白峰へ移動
（宿泊）ホテル蛭月（石川県石川郡白峰村桑島10-1-24）

TEL. 07619-8-2828

(5/9)

・8:00～14:00. 車でホテル出発。
大嵐山登山（または、白山比叡羊神社参拝）、昼食、
金沢へ移動

・14:00. 解散

3. 参加予定者。（敬称略）

安藤道子、北 正昭、北野倫子、佐々木美穂子、鈴木兵一、仙田厚太郎、
高島 誠、田村昭夫、登内郁夫、西尾皓史、（あいうえお順）

4. 特記事項

(1) 服装は気軽に歩きまわれる様、軽装で山行きのスタイルの方が、望ましい。

(2) 会費は、20,000円（男性）～15,000円（女性）程度になると思いますが、後で実費精算いたします。

(3) 車による移動は、高島、北、西尾の3台の車を準備しますので、これに分乗して、移動します。

(4) 医王山登山、大嵐山登山については、天候、および体調と相談の上、ですが、出来れば、登りたいと思います。

医王山は、現役時代の懐かしい思い出が沢山詰め込まれており、これを掘りおこして見るのも意義のあることだと思います。また、大嵐山は、水芭蕉がとってもすばらしく咲き乱れる時期で、十分に、自然の美しさを堪能できると思います。

(5) 鈴木兵一さんが、「5/9（日）解散後、富山県宇奈月温泉へ行って泊まり、翌日、5/10（月）は、トロッコ電車で、黒部峡谷に入りたい。」とっております。

「一緒に行こう。」と思う方は、鈴木さん（TEL:043-432-8286）、または、西尾まで、4/中旬頃までに連絡下さい。

(6) 連絡、問い合わせする事があれば、西尾まで電話して下さい。

（自宅の電話番号）0761-47-2947

－朝は6時30分～7時10分、夜は19時30分～21時ならOKです。－

（携帯電話番号）090-1630-7505

－いつでもOKですが、留守番電話になっていたら、メッセージを入れておいて下さい。－

同期会報告

第3期：西尾皓史 記

昨年の9月、ワンダーフォーゲル40周年記念の総会、並びに記念行事が医王山で開催されましたが、その時、第3期から、田村、鈴木、北、西尾の4名が参加し、それぞれの年代のOB諸君や現役部員と一緒に、賑やかで楽しいひとときを過ごすことができた事で、40年前の血が燃え滾ってくるのを強く感じました。

そして、余韻を残したまま1999年を迎え、その勢いで5月8、9日に同期生（第1～3期）のOB会を、当時のクラブ活動の拠点であった白山の山麓、白峰の地で催す事ができました。

小立野にそれぞれのスタイルで集まった10羽の“渡り鳥”は久方ぶり（或る渡り鳥は、互いに、37年間も会わなかったんだよ！）の再会にもかかわらず、少しの戸惑いもなく、37年前にタイムスリップしながらも、「今日の話」に花を咲かせている。

そこへ、第7期の村田泰恵さんが、“老体の渡り鳥”の行動が気になるようで、飛び込んで来て、路面電車の走っていた時代の金沢しか知らない我々を先導して、金沢大学のニューキャンパスのある角間へ案内し、いろいろと説明をしてくれました。（村田さん、ご案内いただいただけでなく、お菓子までも頂戴して本当に有難う。大変美味しかったヨ。）

村田さんに、バイバイをした後、医王山に向かい、現役時代の懐かしい思い出が沢山詰め込まれた医王の山々の景色を眺めつつ、西尾平～旧見上山荘をワンダリングしました。道路が決壊していなければ、白ハゲ山に登るつもりだったのに、とチョッピリ心残りでしたが、そのまま、車で白峰に向かいました。

本当に久方ぶりの再会なので、言いたい事、喋りたい事が胸一杯に詰まっていて、何かから話をすればいいのかわからない。“ごはんだ、ごはんだ、さーたべよう、、、”で食事は始まり、各自のプライベートヒストリーを聞きながら酒を酌み交わし、談笑しているうちに、現役時代の面影を見つけて気持ちがどんどん若返ってくる。そして、そのうち話題は、全員が共有している、37～40年前の現役時代のクラブ活動のことに移っていくと、みんなが目をキラキラさせ、口は滑らかになり、たちまち現役の渡り鳥にもどってしまったかの如き錯覚に陥り、夜のふけるのを忘れて話しに熱中になってしまった。

ある詩人の言葉に「若い時代に交り合った仲間に会う事は、気持をその時代に若返らせてくれる。」と言うのがあります。将に、その通りであり、老化防止、ボケ防止に役立ち、若返らせてくれる事は間違いない。

1～3期生にとっては、もはや還暦を迎える年代となり、仕事の上で現役を引退する人も、一人、二人と現れ始めたが、気力、体力の面で、個人差が顕著に出始めるのは、やはり、現役を引退した後である。そんな意味で、「年に一度は、集まって互いに刺激し合い、若返りを図ろうヨ。」とお互いに約束をした次第であります。

翌日も空は快晴、明るくなって来た早朝の 5 時過ぎに、もはや外へとびだしていった元気な渡り鳥が何羽かいた。

「自然は本当に大きい。」「空気はうまい。」「ホテルでまだ寝ている、〇〇君の鼾が聞こえるかと思われるほど、静かだ。」

朝食後、大嵐山の水芭蕉を求めて、山に登りました。最盛期は若干過ぎた感じはするものの、水芭蕉は一面に咲き乱れ、充分に、その美しさ、優しさ、そして、薄青いすてきな香り(?)を堪能する事が出来、爽快な気分で、山を下りました。

来年は、昭和34年(クラブ発足二年目)の夏期合宿の舞台となった、立山周辺で、同期のOB会を開催しようということになり、全員が元気な姿で再会する事を誓い合っ解散した次第であります。

以上



佐々木 安藤 北野 北 西尾 田村 登内 仙田 鈴木 高島
(宇野) (榊谷) (加藤)

息子の入学試験に思う

0期 田村 昭夫

長男が大学入試を受ける。私の受験時代と違う。ゲーム気分で受験勉強を楽しんでいる。

それでいいと思う。43年前の私は入試の結果が、その後の人生を決定するとまで思い詰めていた。教師達も我々を煽っていた。

受験間際にした、久米正雄著「学生時代」の中の「受験生の手記」には胸が締めつけられる思いがした。主人公のモデルは我々の高校の

先輩である。主人公は一高受験に二度失敗し、絶望の末、故郷の猪苗代湖に投身自殺するという筋である。

社会の風潮が若い有為な人材を葬り去るのである。昔も今も変わらない、この国の姿である。有名大学に入学するということが、そんなに価値あることなのか。

日本人ほどブランドに弱い民族はない。戦前から現在まで、エリートと云われる有名大学出身者達によって、どれほど庶民は被害を受けたとか。西欧のエリート達は「nobless oblige」

(特権を有する者の責任)を持つ者として、国家の危機には我が身を挺して民衆を守る。しかし、この国では、有名大学出身のエリート達の自己中心と無責任さは、今や常識とさえなっている。

明治以来、西欧列強に追いつく為に創立された帝国大学の役割は、遠い昔に終わっている。官僚養成機関の東大は、もう存在意義を失って久しい。東大に右習えの、全国に散らばっている国立大学も不用となった。

現在の国立大学は地方自治体に運営を任すべし。北陸3県を例にとると、大学は一つで充分である。小規模大学にして、真のエリートを育てる少数精鋭主義を貫くべし。入試も、卒業証書も廃止して、学問を愛する学生だけを面接で入学さす。

来る21世紀は実力だけが頼りの時代である。卒業証書など、何の価値もない。授業料の受領書である。卒業証書がもらえないとなれば、学歴亡者は一掃されよう。

新刊閉経怪物言語

0期 田村 昭夫

安楽死の良い方法を、香林坊の酒場「サボイヤ」(スペイン語で「救世主」)のマスターから聞いた。ブランデーに睡眠薬を入れて一気に飲み干せば、苦しまずにあの世へ逝ける由。

健康を望む向きには、ワインにおろしニンニクを入れて、毎日飲むべし。さらに「粗食深考」「公憤私笑」を心掛ければ、長命疑いなし。されど盛者必衰のことわりに従わざるを得ず。

それにつけても、昨今の閉経の女性(によしよう)達の傍若無人、閉経に非ずんば人に非ずの振る舞いには腹が立つ。一方、源氏の男達はダイオキシン、環境ホルモンに冒されて、元気がない。

不肖、源の朝臣山の上田村麻呂は、閉経討伐に旗上げした。閉経の女人達を追討するには、日頃から男性自身も鍛練せねばならない。熱湯

と冷水に逸物を交互に浸し、しかるにハンマーで打ち据え、毎朝左右のタマを強く握りしめる。閉経の姫君も源氏の荒武者に対抗するには、バナナの千本切りぐらいの荒業には耐えねばならぬ。

源平合戦は今夜もキン大ワンゲルOB、OGによって熱戦が繰り上げられるだろうが、腹上、腹下死を覚悟で善戦を望むや切なり。

ちなみに我家では、源氏が連戦連勝である。

(追記)この原稿が皺くちゃになっているのは、我家の閉経の残党の仕業なり。

(編者注;両者の言い分を載せるのが、流布させる者の責任と痛恨する次第なのですが…)

常識的に、昭子夫人の名声は高まるばかりと思えますので、判定!「実害なし」)

2 1世紀日本経済の再構築

0期 田村 昭夫

(これは日本経済新聞に投稿したものです。

採用、不採用は未だ不明)

*要点

1. 土地本位制の経済基盤を改めるべし。
2. 鎖国して、原材料は国内の廃棄物を生かすべし。
3. 完全な地方分権経済とすべし。
4. 停年を50歳とし、自立さすべし。
5. 年金を一律とすべし。
6. 「足るを知る」経済とすべし。

(その他)文化、教育以外の非生産分野の削減。

老人医療費の削減。

*各論

1. 水と空気と大地は共有財産である。バブル経済は土地の私有から生じたことは明白である。したがって、不良債権となっている土地を国が強制的に没収し、その勢いで全ての私有地を公有とする。土地はそれ自体には価値はない。利用方法が価値を生む。

2. 日本は資源大国である。戦後54年間、日本は世界中から原材料を輸入して、貿易立国を表明してきた。原材料の1割は付加価値をつけて輸出し、9割は国内に残っている。これを再利用せぬ方はない。その為には鎖国して安価な原料の輸入を禁止すべし。
3. 東京一極集中の時は終わったと云われてから久しい。しかし遅々として地方分権が進まない。理由は大蔵省が財布を握っているからである。税金は地方自治体に収支を任せればよい。役人は一度手にした収益は手放したがらぬのが常である。
4. 50歳になっても会社にしがみついている様な人間が日本の経済の足をひっぱっている。若者達の雇用を邪魔しているのは、何時までも自立出来ないでいる中高齢者層である。50歳になっても自分で収入を得られない人間は家庭を持つ資格はない。
5. 厚生年金、共済年金、国民年金等複数制を廃止し、一律月5万円程度の年金で充分である。人間一匹生きるのにさほど金はいらない。もしこれで生きられないと云う人は、死ねばよい。高額な年金をもらう不労の輩は国賊である。
6. 昭和31年、「もはや戦後ではない」と云われた段階で、経済成長を止めるべきだった。調子にのり過ぎた結果が現在の不況である。しかし日本は金持ちである事は変わらない。国民一人平均千万円の預金がある国は他にない。これを大事に使い、無駄使いをしなければ、当分世界の一流国の地位は維持出来よう。

*結論

以上を実施するには、強力なリーダーが必要である。それは現在の政治家、役人に求めても駄目である。大統領を国民投票で選ぶのがもっと早い。急がねばならぬ。

山便り

山村嘉一 wrote: 赤兎山へ行ってきました。

奥名さんいつも大変お世話様です。8期の山村です。昨日は月曜日なのに会社の都合で休日になり、久しぶりに少々歩いてきました。行ったところは、最近のガイドブックに紹介されていた赤兎山。前日あたりの予報のお日様マークを信じ切ったのですが、起きたら曇り。半ばあきらめながらも、悪路とポツリポツリの小雨をついて登山口まで。霧に濡れた花と緑でも見せてもらえればと歩き始めたのですが、何と頂上では数分間の晴れ間に御前峰、別山と御対面！！きっと登山口のお地藏さんへのお賽銭の効果かも？(小生100円、家内20円) コースタイム通りには歩けない事を、これまでは家内に「あんたが一緒やから」と言ってきたのだが、今回はそうも言えない様子。大したこともないコースなのに、息切れの激しさと汗のかきかただけは、コースタイムの半分で歩いてきたような感じ。ほんの時々小雨が来ただけで、ニッコウキスゲは満開も間近、ササユリは数輪が開花でほとんど可憐なつぼみ、ほかにいくつかの花が咲いて、なかなか良かったです。担いでいても飲んで汗の元の缶ビールも実に飲み頃にコントロールできて、実にうまかったです。7月25、26日には大奮発して立山は弥陀が原ホテルへ行きます。ではいずれまた。小生の0B会費は本日振り込みました。

FROM: okuna <ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp>

SUB: KUWV 白山ぶらり

奥名@15期です

OBの皆様いかがお過ごしでしょうか。

当地金沢では梅雨の活動は今はひと休みとなり、
やや涼しく気持ちの良い日がしばらく続いています。
もうしばらくは雲が多めながらも大雨にはならない
ようです。しかしながら真夏というにはふさわしくなく、
やはり最後の梅雨前線の活動が終わらないとギラギラした
日差しはやってきません。それを望んでいる人にも
望んでいない人にも関係なく。

以下私事

7月9日(土)降水確率限りなく0に近い予報のもと朝4時起床
5時出発。一路別当出合へ。(先月スピード違反で18000円も
国庫に提供しているのでこれ以上は無用。法定速度で7時着)
一般の駐車場は別当出合から少し下ったところにあり、そこを登りたく
ない人たちがすでに路上にずらりと車を止めてある。2段構えの駐車場の
一番下はがらがらとは言わないまでも半分くらいは空いていた。
みなさん少しでも登りたくないのでしょうか。
メンバーは私とオバサン2人。
駐車場ではまづコーヒーを沸かしてゆっくりいただき30分後出発。
釣り橋をわたったところにホタルブクロがひとつだけゆれていた。
まるで銀座通りのように次から次から登山者がやってきて歩のおそい
我々はその都度立ち止まり「どうぞおさきに」と道を譲らねばならない。
そんなこんなでコースタイムの2倍から3倍程の時間がかかった。
中飯場の一つ上の林道交差あたりにあったハクサンチドリは道路整備の
草刈で見事に首を切られてなくなっていた。そのかわりでもないが、南竜へ
の水平道では少し時期ははやすぎるもののたくさんの高山植物と別山の
景色に満足。下界を雲海の下に隠してしまっはてしなく続く雲の海、
その写真をお届けしましょう。(ほんまものにははるかに及びません)

主な今回観察植物

ホタルブクロ・カラマツソウ・センジュガンピ・カニコウモリ・
ゴゼンタチバナ・イワハゼ(アカモノ)・マイズルソウ・コイワカガミ・
キバナノコマノツメ・サンカヨウ・ツマトリソウ・トリアシショウマ・
ミヤマカタバミ・

南竜付近では

ヨツバシオガマ・ハクサンチドリ・ハクサンフウロ・ハクサンコザクラ・
イブキトラノオ・アラシグサ・ニッコウキスゲ・ミツバオウレン・
コバイケイソウ・

今回は南竜までの日帰りでした。